



ふくおか[Good]農業人100
主な農産物／ガーベラ

田中 祐治さん (35歳) (営農地／八女郡広川町大字水原)

失敗から学び、成功につなげる

《就農のきっかけ》

きっかけは父からの電話

「いっしょに、農業やってみないか。」地元で会社勤めをしていた田中さんが、農業の道を選んだのは、父親からの一本の電話がきっかけだったそうです。これまで補助的な品目でしかなかったガーベラの面積を拡大し、本格的な花農家として出発しようとしていた父からの「新たな挑戦」への誘い。しかし、子供の頃から農業に携わる両親の姿を見てきた田中さんにとって、その挑戦は決して楽観できるものではなく、「きついだらうな」というイメージは最後まで消えませんでした。それでも、自分の作ったものが直接評価してもらえる、厳しいけれど、やりがいのある農業への「挑戦」を田中さん自身も決断し、家族で支え合いながらの出発となりました。



プロフィール

■家族構成／父、母、本人、妻、子ども2人 ■前職／会社員
■営農年数／約7年目 ■耕作(経営)面積／33a
■販路／JA共販

《これまでの過程》

失敗からの学び、 そして先輩からの学び

農業を始めた頃は父親から叱られてばかり。水やり、収穫、農薬散布など、どの作業も失敗が続きました。しかし、そのような状況の中でも、ある一つの思いが田中さんを支えていたそうです。「今はまだ、失敗をなくすことは難しい。ただ、失敗から学ぶことはできる。同じ間違いは二度と繰り返さないよう、今回の失敗を次に活かそう。」決して順調な歩みではありませんでしたが、確実に前進する取り組みを重ねて行くことで、徐々にガーベラ作りの技術は向上していきました。そしてもう一つ、田中さんを支えてくれた、頼もしい存在がありました。ガーベラ部の仲間たちです。壁にぶち当たるたびに、十数名の先輩生産者たちが適切なアドバイスを与えてくれたそうです。失敗から目をそらさず、原因を明らかにする取り組みと、先輩たちからの手厚いサポートは、農業の素人だった田中さんを、ガーベラ部を支える中核生産者に変えていきました。

《これからの展望》

ガーベラ日本一を目指す

今後の目標を尋ねると「やっぱり、日本一のガーベラ産地になることですね。全国の人に、広川のガーベラをもっと良く知って欲しいから。そのためには、色や形など、他の産地にはない品種を導入したいし、暑さや病気に負けない、日持ちの良いガーベラ作りの技術も必要。それに、この目標は一人では達成できない。ガーベラ部全員のチームワークを強くし、力を合わせていかないと。やることは、まだまだいっぱいありますね。」田中さんはこう、語ってくれました。



Good 成功のためのポイント

失敗して終わりではないんです。なぜ失敗したかの原因を分析し、次に反映させていく。地味だけど、これを繰り返していくことが、次の成功につながっていくと思います。